

科目名	社会調査法	担当教員	内藤順子 世古俊明 ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	-------	------	----------------------------------

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	選択	1年次	前期	1単位	講義

科目概要	社会現象の正しい理解や問題の解決には、社会事象を実証的にとらえる方法が不可欠である。それが、信頼に足る科学的データを得る社会調査法である。この授業では、まず社会調査（フィールドワーク）の意義とその多様な方法を学ぶ。つぎに、自らの研究課題に適した社会調査を立案し、調査票を設計できるようになることをめざす。最後に、得られた調査データを、統計的方法を理解したうえで、コンピュータ統計ソフト SPSS を用いて分析する技能を修得する。当然のことながら、すべては調査倫理に立脚していなければならないのであって、この点は繰り返し教授する。
学習目標	ある物事や対象を、様々な角度・視点からとらえられるようになる。社会調査（フィールドワーク）の理論と方法を学習し、実際の体験を交えながら、質的調査というものの理解を深める。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1	社会調査とはなにか	野外科学、エスノグラフィー（民族誌）、見える世界と見えない世界、知識の重層性	見る・聞く・書くという実践からたちあがるデータの収集方法・メリットとデメリットを学ぶ。	
2	フィールドワークの魅力と苦悩	古典的社会調査（マリノフスキー）から現代にいたるまでの民族誌をよみとく	調査地に身を置くことの意義と苦悩について理解する。フィールドワーカーの数だけフィールドワークのスタイルがあることと、調査者は無色透明ではいられないことを理解する。	
3	フィールドワークの実例	データのとり方：文献資料、視覚資料、観察、身ひとつ手ぶら丸腰のフィールドワーカー	資料（収集法）の多様性を学び、フィールドの三次元性を理解する。	
4	フィールドワークの技術（1）	インフォーマントとの出会いと接近：インタビュー、アンケート、臨機応変であることの重要性	耳を主体にしつつ、その他の感覚でも機微をとらえるフィールドワークの知見を得る。	
5	フィールドワークの体験（1）	全人的作業としてのフィールドワーク実践（1）：「ひと焦点化手法」	課題を通してフィールドワークによる視点の変化を体験する。	
6	フィールドワークの技術（2）	対象をとらえる、問題意識を確認する：写真観察法	眼を主体にしつつ、その他の感覚でも機微をとらえるフィールドワークの知見を得る。	
7	フィールドワークの体験（2）	全人的作業としてのフィールドワーク実践（2）：「写真観察法」	課題をとおしてフィールドワークによる問題発見を体験する。	
8	社会調査の倫理と成果の還元	フィールドワークを含む社会調査全般の倫理（人権、参与、還元）、資料、データの整理と統合。半期のまとめ	調査倫理の重要性を理解する。また成果の還元と、自己変容をもたらす実践であることを学ぶ。	
評価方法		レポート 70%、平常点 30 パーセント		
教科図書		教員作成資料		
参考図書		講義中に適宜指示する。		
学習の準備		事前に指定・配布したものを予習すること。		
オフィスアワー		在室時は可能		

担当教員欄に※印を付した教員の 実務経験	
-------------------------	--